

高等教育実践論集 執筆要領

(2025 年 6 月 18 日 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要・出版委員会)

1. 刊行の目的

高等教育実践論集（以下「本誌」）は，高等教育および学生支援の促進と発展，実践成果や知見の発信，実践論の普及を図ることを目的として刊行する。

2. 原稿の種類

1) 投稿原稿

本学の高等教育・学生支援を対象とする研究，開発，実践，検討の結果をまとめたもので，速報性や新規性，有用性，信頼性を有し，新たな知見が示されること。

2) 依頼原稿

上記 1) の原稿内容で，全学教育の科目委員会委員や学部・研究科の教務関係委員のほか，全学教育貢献賞受賞者や総長教育賞受賞者に依頼したもの。

3. 執筆の要領

原稿執筆にあたっては，本論集のテンプレートを利用すること。詳細はテンプレートに記載されているので，ここでは概要のみ示す。

- 1) 原稿の構成：表題，著者名，キーワード，本文，(注)，(謝辞)，参考文献とする。
- 2) 表題：日英両方で表記すること。
- 3) 著者名：日英両方で表記する。著者毎に上付きの記号 * で対応させた所属名称を 1 ページ目下部の罫線下に日英両方で記すこと。
- 4) キーワード：1 項目以上 5 項目以内で記すこと。
- 5) 本文：章・節・項等の見出しをつけて読み易くすること。

(例) 第 1 章	→1.
第 1 章第 1 節	→1.1
第 1 章第 1 節第 1 項	→1.1.1
細別項目の第 1 段	→(1)
- 6) 図表：図は鮮明な画像を用いること。図および表は，原稿全体を通じてそれぞれ通し番号をつけ，図のタイトルは下欄に，表のタイトルは上欄に表示する。
- 7) フォント・記号類：本文のフォントは，和文：MS 明朝 10pt，英数字：Times New Roman 10pt とする。句読点は全角のコンマとピリオドを用いる。ただし参考文献および英文中では，半角のコンマとピリオドを使う。数字はすべて半角とする。
- 8) 原稿のイメージとページ数：原稿は A4 判を使用し，横 24 字，縦 41 行×2 段組みの

書式で作成すること。ページ数の上限は、図表などを含め 8 ページ以内とする。

9) 文体等：文体は，“…である”調とし、漢字には「常用漢字」を用い、学術用語は文部科学省の規定があればそれに従うこと。謝辞は任意である。記載する場合は、参考文献の直前に入れること。

10) 参考（引用）文献：記述内容に直接関連のある文献は、本文中の該当箇所に[番号]の形で示す。また、原稿末尾に引用順に文献リストをまとめること。

（例）

本文内の記載例

新たな時代を見据え、高等教育における質保証システムの見直し、教育改革が進められている[1]。

串本[2]では、学科系統分類表に依拠した現行の専門分野別統計には課題があると指摘している。

また、教育データに基づく学習支援の重要性が示されている[1][3]。

参考文献の記載例

[1] 東北太郎，東北花子，東北二郎，“東北大学全学教育における教育改善の実践”，高等教育実践論集，vol. 1, no. 1, p. 34-42 (2025)。

[2] 串本剛，“学科系統分類表に基づく専門分野別統計の批判的検討：学士課程教育の質保証と大分類「その他」”，大学改革・学位研究，vol. 26, p. 103-112 (2025)。

[3] Spring, R., and Ono, N., “Creating an automated tool to assist with event-conflation studies: An explanation and argument for its importance”, Research Methods in Applied Linguistics, vol. 3, no. 1, 100054 (2024)。

参考文献は、本文中に引用または言及しているものに限る。記載方法は、原則として次の形式に従うこと。

①学術誌論文誌掲載論文

著者名，“論文名”，誌名，巻数，号数，p. 始頁-終頁（出版年）。

（和文例）

[1] 東北太郎，東北花子，東北二郎，“東北大学全学教育における教育改善の実践”，高等教育実践論集，vol. 1, no. 1, p. 34-42 (2025)。

[2] 串本剛，“学科系統分類表に基づく専門分野別統計の批判的検討：学士課程教育の質保証と大分類「その他」”，大学改革・学位研究，vol. 26, p. 103-112 (2025)。

<https://doi.org/10.32175/kaikakugakui.2025.26007>, (参照 2025-05-27)。

（欧文例）

[3] Spring, R., and Ono, N., “Creating an automated tool to assist with event-conflation studies: An explanation and argument for its importance”, Research Methods in Applied Linguistics, vol. 3, no. 1, 100054 (2024)。

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2772766123000149?via%3Dihub>, (Accessed 2025-05-

27).

②論文集論文

著者名, “論文名”, 書名, 編者名, 出版者, p. 始頁-終頁 (出版年).

(例)

[4] 富沢友樹, “外国語における動向”, AI は教育を変えるのか, 福田幸子編, 広瀬書房, p. 59-97 (2024).

③国内外会議予稿集, 国内学会全国大会・研究会・シンポジウム等の論文

著者名, “論文名”, 会議報告書名, 会議開催地, 会議開催期間, 会議主催機関名, p. 始頁-終頁 (出版年).

(和文例)

[5] 山田隆裕ほか, “東北大学における学生支援の取組”, 東北地区高等教育研究会講演予稿集, 仙台, 2025-09-18/19, 東北大学高度教養教育・学生支援機構, p. 39-40 (2025).

(欧文例)

[6] Moore, S., et al., “An automatic question usability evaluation toolkit”, Abstracts of the 25th International Conference on Artificial Intelligence in Education, Recife, Brazil, 2024-7-8/12, AIED Society, p. 31-47 (2024).

④図書

著者名, 書名, 版表示, 出版者, p. 始頁-終頁 (出版年).

(和文例)

[7] 青葉太郎, 広瀬花子, 高等教育の課題, 第2版, 片平出版, p. 54-68 (2022).

(欧文例)

[8] Field, J., Learning Support in Higher Education, TU Press (2014).

[9] Jones, K., Learning Environment in Higher Education: Service-Learning for Citizenship, TU Press (2014), 宮城政宗訳, 高等教育の学習環境, 仙台出版 (2016).

⑤図書の一部

著者名, “章の見出し”, 書名, 編者名, 版表示, 出版者, p. 始頁-終頁 (出版年).

(和文例)

[10] 伊達杜広ほか, “大学における学習支援”, 大学教育とライティング教育, 川内萩子編, 第3版, 仙台出版, p. 54-68 (2023).

(欧文例)

[11] Harrison, B. R., “Risks of handling cytotoxic drugs”, The Chemotherapy Source Book, 3rd ed., Lippincott Williams & Wilkins, p. 566-580 (2001).

⑥中央教育審議会答申等, 政府機関等が発行している公文書

(例)

- [12] 中央教育審議会, 我が国の「知の総和」向上の未来像：高等教育システムの再構築（答申）,
https://www.mext.go.jp/content/20250221-mxt_koutou02-000040400_1.pdf, (参照 2025-05-27).

⑦Web ページ等

著者名, “ウェブページの題名”, ウェブサイトの名称, 入手先, (入手日付).

(例)

- [13] 科学技術振興機構, “SIST 02 参照文献の書き方”, 科学技術情報流通技術基準,
<https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/jipsti.jst.go.jp/sist/perusal/index.html>, (参照 2025-05-17)

⑧データベース

作成者名, データベース名, バージョン, 出版者, 出版年, 更新日付, 入手先, (入手日付).

(例)

- [14] 愛知大学中日大辞典編纂所, 中国語語彙データベース, 2020-02-01, <https://hcs.aichi-u.ac.jp>, (参照 2025-05-27).

* 上記の掲載例以外の場合は, 下記を参考にして適宜記載すること.

参照文献の書き方(SIST 02)

付記

本誌の参考文献の記載方法は, 資料[1][2]を参照にして作成した.

また, 本誌の原稿作成テンプレートは, 資料[3][4]を参照にして作成した.

- [1] 科学技術振興機構, “SIST 02 参照文献の書き方”, 科学技術情報流通技術基準,
<https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12003258/jipsti.jst.go.jp/sist/perusal/index.html>, (参照 2025-05-17)
- [2] IEEE Reference Style Guide for Authors, https://journals.ieeeauthorcenter.ieee.org/wp-content/uploads/sites/7/IEEE_Reference_Guide.pdf, (参照 2025-05-17)
- [3] 教育システム情報学会, 論文執筆用テンプレート(2024 年 6 月改定), https://www.jsise.org/wp-content/uploads/2024/06/JSISE-Paper-Templete_202406.pdf, (参照 2025-05-17)
- [4] 情報処理学会, MS-Word テンプレートファイル, <https://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html>, (参照 2025-05-17)

* 原稿テンプレートは, 投稿予定のエントリーを行った者に送付されるとともに, 高度教養教育・学生支援機構ウェブサイトの「高等教育実践論集」ページにも掲載されている.